



Challenge千代田

令和2年2月19日

第10号

<http://www.chiyoda-e.kofu-ymn.ed.jp/>

甲府市立千代田小学校
甲府市下帯那3034-2

電話：055-251-8059

FAX：055-251-8067

発行：校長 廣瀬 正純

昨年12月に、学校自己評価の「児童アンケート」「保護者アンケート」「教職員アンケート」を実施し、2月9日(火)の学校評議員会の際に、各アンケート結果について報告し、学校関係者評価をしていただきました。今回は、学校評価結果について報告します。

学校評価の結果について

1「学校教育目標の実現に関して」

- ・学校は楽しいと回答する児童がほとんどであるが、一部に否定的な意見も見られた。人間関係については、人権教育を推進する中で、他者の立場を尊重する姿勢を育むとともに、よりよい学校生活について考えさせることで改善を図っていく。また、外部との多様な関わりを設ける中で、職員もなお一層全体で意識を高めていく雰囲気づくりに努めていく。
- ・進んで学習する児童に関しては、校内研究で取り組んでいること、教職員はアクティブ・ラーニングの視点で授業改善を行い、分かりやすい授業やきめ細かな学習指導に努める。特に、主体的な学びに関わって、見直し・振り返りをしっかりと授業に位置づけ、次時の授業につながるようにしていく。学校全体で授業に臨む姿勢として授業づくりのポイントとしてやまなしスタンダード、具体的な取組として甲府スタイルの再確認と着実な実施を行っていく。学校の特色をしっかりと継承しつつ、新しい学習指導要領に係る教育課程の実現から、関連性を明確にして活動を行っていく。

2「学校運営・組織について」

- ・学校と家庭・地域等が連携・協力に関していくつか実施したものもあるが、PTA 活動や地域等との連携という点において、今年度は新型コロナウイルス感染症対策から、有価物回収や千代田荘との連携など、いくつかの行事を取り止めたことも課題として捉えられたのではないかと考える。今後も「with コロナ」の中で連携の在り方を考えていく必要がある。
- ・環境整備については師弟同業をベースに働くことの意義を考えさせ主体的に環境整備ができるようにしていく必要がある。また、資料室を有益に活用できるよう整理し教材教具について共有を図っていくことが大切である。営繕関係については、校舎が古いこともあり、月毎の安全点検をしっかりと行う中で修繕箇所については早急に対応するようにする。
- ・生徒指導については、児童への固定的な捉え方でなく多面的・多角的な視点で捉え、より具体的に指導内容を定め、共通理解の下で指導に当たっていく。
- ・校務分掌やいじめ対応については、保護者や地域のより一層の協力を図り、「チーム千代田小」の学校力向上に努める。

3「教育活動の状況」について

- ・学習面での基礎基本の定着については、教員児童共に高いが、保護者評価については、児童が授業の内容を理解している点について若干の不安を感じているようである。主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善を常に行っていくと共に、保護者には、今年度コロナ禍で授業参観の回数が少なかったことも要因として考えられるので、感染症対策を講じながら参観できるようにしていく。
- ・挨拶、言葉遣いについては、多少捉え方にズレが生じているので、情報共有を図り、学校・家庭・地域の連携のもと課題改善を図っていく。
- ・家庭学習の指導について情報を共有したり、帰りの短学活の時間を使って目標などを設定する家庭学習スタンバイなどを取り入れたりして充実を図り、自ら進んで学ぶ姿勢を持たせるための授業改善も行っていく。
- ・体力について、スクールバス通学でもあり意図的に休み時間に体を動かすことを仕組んでいるが、まだ不十分などところもあるため、結果につながる取組になるよう保護者への協力の働きかけを行っていく必要がある。

4「全体を通して」

- ・大規模校では絶対にできない小規模校ならではの利点を生かし、体験活動を取り入れる中で、子供たちの成長に大いに有効であることを情報発信していきたい。
- ・指導力向上に努めることは責務であり、チーム学校の実現に向けても不可欠である。単学級だからこそ、職員間の連携を強化し、組織的に取り組んでいく必要がある。報告、連絡、相談を管理職ばかりでなく、職員全体への実施を励行する。

学校関係者評価の結果について

4名の学校評議員の皆様、「児童によるアンケート」「保護者によるアンケート」「教職員によるアンケート」結果及びその分析について報告した。

今年度は、それぞれのアンケート項目を並び替え、関連させて分析することができた。

評議員の皆様から、アンケート結果をふまえて学校教育全般に関して、貴重なご意見をいただいた。

1「学校教育目標の実現に関して」 ○は評議員会を受けて、次年度、主に取り組んでいく内容

- ・年々児童数が減少する中で、学校、児童、保護者、地域との関わり方の変化も大きくなりつつある。更に新型コロナウイルスの感染予防の観点から、今年度は今までにない環境におかれ、いろいろと困難な面も多かったと思う。その中で「千代田小らしさ」「良さ」は確実に子供たちに伝わり、成長させていると感じる。
- ・児童数が少ないので、それぞれの児童の性格や個性がよく職員の先生方も理解できていると思う。児童数が少ないためのトラブルもあると思う。
- ・千代田小ならではのきめ細かな教育、主体性を重要とした学習が行われていると感じた。
- ・児童アンケートでは、好評価であり、楽しく意欲的に行動している学校生活が伝わってきた。保護者アンケートは「ややそう思う」割合が高いが、特に地域や保護者への分かりやすい説明を求められていると思われるので対応願いたい。
- ・「明るく生き生きとした雰囲気」は同級生が少ない中での先生のご苦労が想像されます。
- 学校全体で授業に臨む姿勢として授業づくりのポイントとしてやまなしスタンダード、具体的な取組として甲府スタイルの再確認と着実な実施を行っていく。
- 学校の特色をしっかりと継承しつつ、新しい学習指導要領に係る教育課程の実現から、関連性を明確にして活動を行っていき、それを保護者や地域に発信していく。

2「学校運営・組織について」

- ・感染症対策のため、今年度は中止になった行事も多く、特に地域との交流については非常に残念に思った。反面、1分間スピーチや運動会などで、地域とのつながりの強さを実感できた部分もあった。今後も少人数校ならではのよさを生かし、「チーム千代田小」として児童を中心とした周囲との連携を大切にしていってほしいと思う。
- ・コロナ禍のためにPTA活動などができない事があると思う。他の学校との交流もできず子供たちも友達を作るのが大変である。
- ・本年度はコロナ禍により、生活に変化がもたらされて感染症対策に努められたことと思う。
- ・保護者からは相談できる先生がいると信頼を寄せているが、先生のいじめの取組については、「そう思わない」「わからない」割合が高くなっている。難しい問題でしょうが引き続き取り組んでいただきたい。
- ・行事等があると児童より大人の方が多くなる。そんな中で先生方のメンタルの安定が保たれるのかが気になった。
- 学年間のつながりをいっそう意識したコミュニケーションの励行を進めていく。
- 改訂「いじめ防止基本方針」の周知と連携の強化を図っていく。

3「教育活動の状況」について

- ・少人数校の利点である個々へのきめ細かい対応や指導は着実に子供たちの学習能力の向上や心身の成長に結びついていると感じます。反面、それぞれの価値観や考え方の相違などの「かけ違い」が生じたときの解決の難しさは否めないと思う。今後、更に児童数が減少する中で、学校と児童、保護者間の意識の共有は、より一層重要だと思う。
- ・1分間スピーチなどで自分の考えを発表する機会があるのは良いことだと思う。
- ・学習面での基礎の習得は、保護者の方としては気になる部分かと思う。中学校では大きな集団になるので、そこに継続できる確信が持てれば良いと思う。
- ・児童は学校の勉強はよく分かったと好評価であり素晴らしいと思う。児童の挨拶がきちんとできていると感じていたので先生方の評価が「ややそう思う」もあったのは意外であった。心のこもった挨拶、美しい言葉で話せる人に育ってほしいと願う。
- ・児童の「学校の勉強は楽しい、よく分かる」先生方の努力が反映されているのが窺える。
- 情報共有を図り、学校・家庭・地域の連携のもと課題改善を図っていく。(挨拶、言葉遣いについて)
- 家庭学習の充実を図り、自ら進んで学ぶ姿勢を持たせるための授業改善を行っていく。

4「全体を通して」

- ・新型コロナウイルスの感染状況が収束を見せない中、なかなか以前と同様の活動をするのは難しいかもしれないがこのような状況下だからこそ他者を思いやる気持ちや協力することの大切さをより実感できると思う。千代田小学校の最大のよさである「一体感」「チーム学校」としての特性を今後も生かしていってほしいと思う。
- ・数少ない児童で別々の授業を受けなければならないのは残念である。
- ・1分間スピーチは毎回感動させられている。児童の努力や成長が窺える。今後、地域の一人として見守り、支えていければと思う。
- ・他地域の子供たちや保護者、地区の人たちにも感心を持ってもらえるようHPの情報発信等さらに充実していただきたい。長年の取組である1分間スピーチ、一輪車など、これからも続けていただきたい。